

【矢印を使う】

「矢印を使うこと」を覚えておくと技術文書を書くときや図解で書くときに役立ちます。

1. 矢印をルール4やルール5で使う

「ルール4：視覚的に書く^{注1)}」や「ルール5：合わせて書く^{注1)}」を使って技術文書を書く場合には矢印を使うことで内容が一層明確に伝わります。

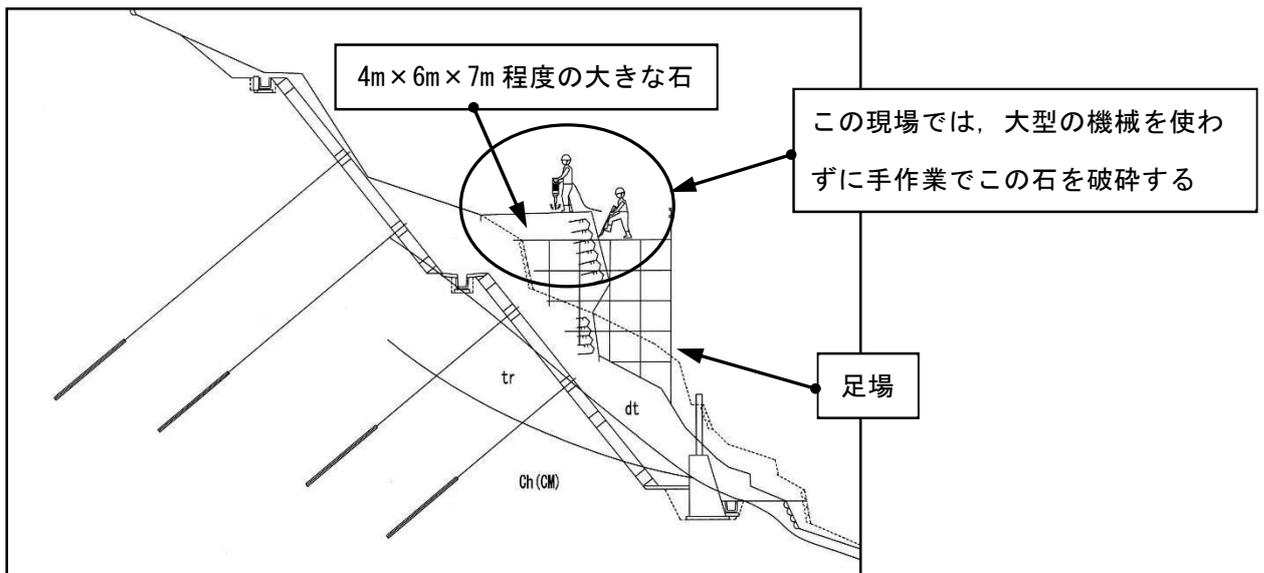
矢印は、読み手の視線を誘導する効果があります。「こちらを見てください」と文で書かなくても読み手は自然に矢印の方向に視線を移動させます。

注1)：「マンガで学ぼう・ダウンロードコーナー」の中の「『6つのルールと18の書き方』とは」の資料を参照のこと

1.1 ルール3：書き方9（図や写真を入れて書く）

書き方9とは、内容に関する写真や図を入れて書くことです。書き方9を使うときのポイントは、写真や図に関して読み手に伝えたいことを簡潔にこれらに書き加えることです。書き加える方法の一つに「囲みと矢印を使って書き加える方法」があります。これは、例えば、以下のような書き方です。“図に関して読み手に伝えたいこと”と“図”とを矢印で結び付けています。

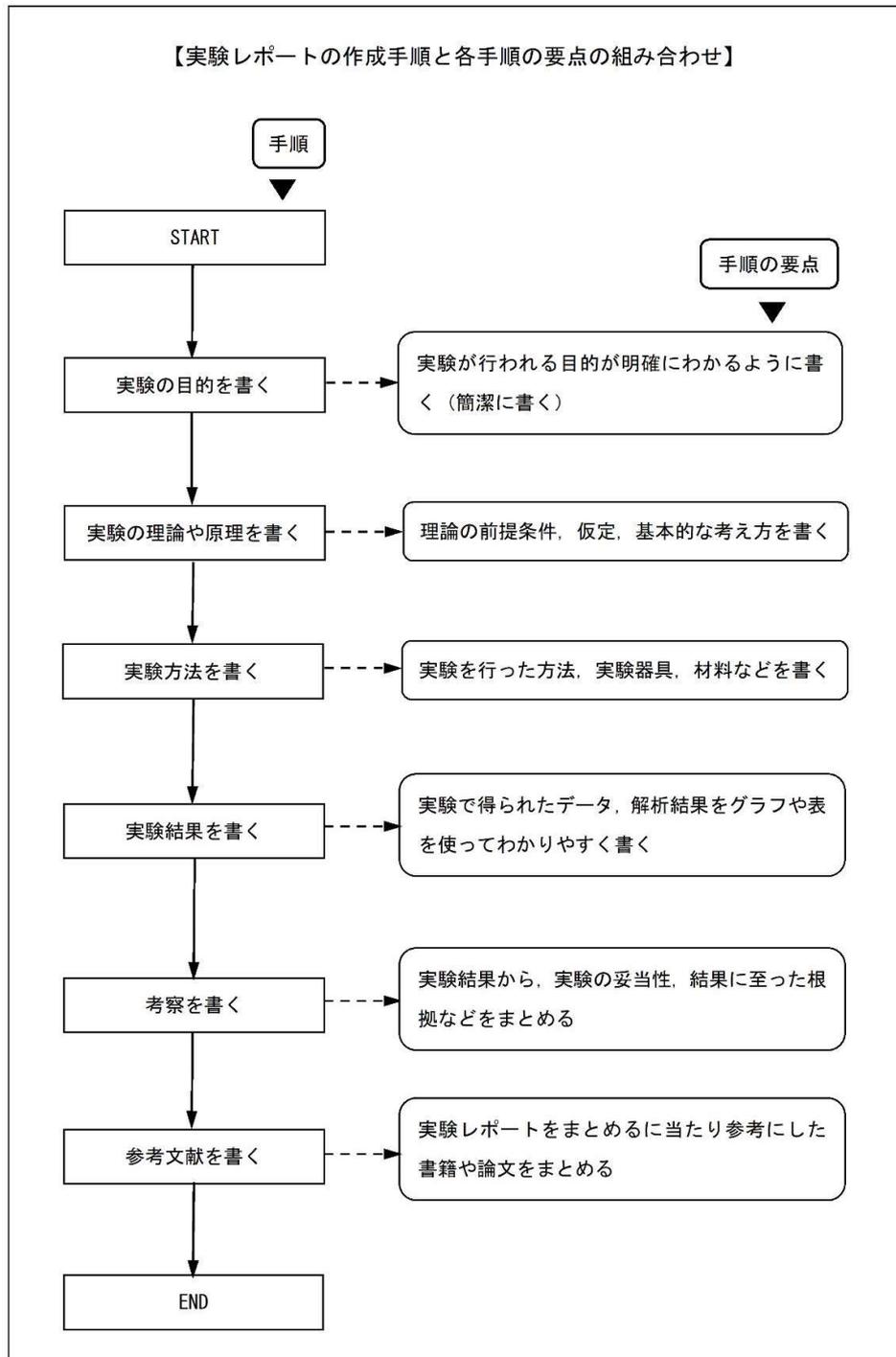
矢印を使って書くと、図に関して読み手に伝えたいことが明確に伝わります。



1.2 ルール5：書き方12（組み合わせて書く）

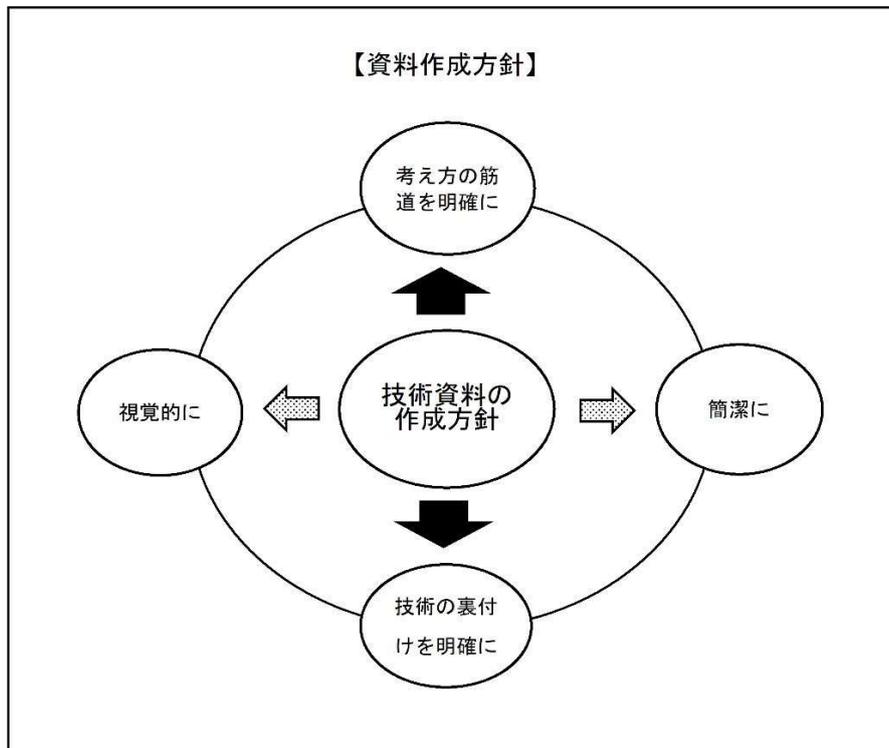
書き方12とは、ある部品を一層明確に伝えるために部品を組み合わせて書くことです。以下に示したのは、「手順」と「手順の要点」を組み合わせた例です。「手順」と「手順の要点」を矢印で結び付けています。

矢印を使って書くと、「手順」と「手順の要点」との関係が明確に伝わります。



2. 図解を書くときに使う

矢印は、図解で書くときの重要な道具です。矢印を工夫して使うことが図解で書くときのポイントです。例えば、以下の例では、「考え方の筋道を明確に」と「技術の裏付けを明確に」の方向に向く矢印を、「視覚的に」と「簡潔に」の方向に向く矢印より大きくかつ黒く塗りつぶし目立つようにしています。このように矢印を使うことで、技術資料を作成するうえで「考え方の筋道を明確に」と「技術の裏付けを明確に」に重点を置いていることがこの図解を見ることでわかります^{注2)}。



また、次頁に示したように、矢印を使うことで伝えたいことの流れを図で示すことができます^{注3)}。

技術文書を書くときにその内容を図解で書くことはほとんど無いと思います。しかし、プレゼンテーションの資料を図解で書くと、その内容が短時間で明確に伝わるしその内容の説明がしやすくなります。

注2) : 「マンガで学ぼう・ダウンロードコーナー」の中の「参考：図解で書く」の資料を参照のこと

注3) : 「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「図解でわかる 1分で理解できる解答の書き方」の資料を参照のこと

以上

